

令和元年度事務事業評価シート					取組みコード	42212
区分	イベント	担当課	スポーツ・文化振興課	作成日	令和元年5月13日	
事業名	若者たちの音楽祭開催経費		開始年度	平成27年度	予算科目	9.4.5.1.2

1 事業の概要

総合計画での位置づけ			
部	第4部_豊かな人間性を育む文化のまちづくり	章	第2章_生涯学習と地域文化の創造
節	第2節_地域文化の振興	基本施策	1_文化活動の推進
取組みの基本方向 (2)若者主体の文化イベントの開催や住民の文化活動を発表する機会の提供			
根拠法令等	(参考)若者たちの音楽祭4 実施要項		
目的 (誰・何を対象に、何のために)	ロックやポップス、ジャズなどの軽音楽に励む若者たちの音楽活動発表の場として、参加者主体の音楽祭を開催することにより、若者同士の交流や世代間の理解を深め、新たな若者文化の創造と定着に寄与する。		
内容・方法 (何を行っているのか)	高校生から30歳代までの若者及び40歳以上の歳を重ねてもカッコ良いおじさん・おばさんたちによる軽音楽演奏発表		

2 指標(事業の成果・活動内容等を数字で表します)

		指標名		基準年度		令和4年度	
本事業が属する総合計画の節の成果指標		『地域文化の振興』について「満足」と感じる住民の割合		41.0%		44.0%	
(A) 総合計画の節の目標を達成するため本事業に求められる成果		より多くの方に文化イベントに参加いただくこと					
(A)の成果をあげられているか測るための指標(成果指標)	増減	指標の説明	項目	基準年度 (平成28年度)	平成29年度	平成30年度	令和元年度
来場者の人数	増	若者たちの音楽祭に来場された人数	計画値		400.0	400.0	500.0
			実績値(見込値)	348.0	388.0	467.0	500.0
			達成度※自動計算		97.0	116.8	100.0
(B) 成果指標の目標を達成するため本事業において町が行う活動		来場された方が「よかった」と思うような魅力的なイベントを実施する					
(B)の活動状況を知るための指標(活動指標)	増減	指標の説明	項目		平成29年度	平成30年度	令和元年度
来場者の満足度	増	来場された方が「よかった」と思う魅力的なイベントにすることで来場者数の増加を図る	計画値		85.0	85.0	90.0
			実績値(見込値)		84.0	87.0	90.0
			達成度※自動計算		98.8	102.4	100.0

※ 増減欄は、指標の値について、増加が望ましい場合に「増」、減少が望ましい場合に「減」を記入する。

3 事業費の推移と財源内訳

				(E) 平均人件費(円/年)	8,300,000
年 度		基準年度(決算) (平成28年度)	平成29年度(決算)	平成30年度(決算見込)	令和元年度(予算)
(A) 事業費(円)		860,000	846,349	855,349	981,000
(B) 概算職員数(人)		0.194	0.182	0.186	0.270
(C) = (B) × (E) 人件費(円) ※自動計算		1,610,200	1,510,600	1,543,800	2,241,000
(D) = (A) + (C) 総事業費(円) ※自動計算		2,470,200	2,356,949	2,399,149	3,222,000
単位当たりコスト※自動計算		7,098.3	6,074.6	5,137.4	6,444.0
財源内訳(円)	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		その他	0	33,000	33,000
	一般財源※自動計算		2,470,200	2,323,949	3,189,000

4 事業の項目別評価(分析)

項 目	判定基準	判定 ※一部自動判定	評価 ※自動判定
妥当性 (公費を投入して実施することが妥当な事業か)	法令等で義務付けられた事業である		C
	民間サービスで同様の事業は実施されていない、市場原理に委ねることができない		
	国や県において実施している事業との重複がない		
	事業開始時から事業目的や町民のニーズの低下や変質がない		
	事業・サービスの提供時間帯及び場所は公平に提供されている		
	受益に応じた負担は適正である		
	事業の実施による効果が不特定多数の人に広く及ぶ性質である	○	
有効性 (基準年と比較して成果が上がっているか)	事業・サービスの対象者の日常生活に必要な事業である		A
	上記のいずれにも当てはまらない		
有効性 (基準年と比較して成果が上がっているか)	成果指標について平成30年度の目標を達成している	○	A
	基準年度と比較して成果が向上している	○	
効率性 (なるべく費用をかけずに成果を上げているか)	基準年度と比較して費用の縮減ができている (費用の縮減率が成果の向上率以上か)	費用減、成果アップ	A
有用性 (施策の成果指標の目標達成に貢献しているか)	総合計画の節の目標達成のための本事業の効果	直接的	A
	総合計画の節内での本事業の優先順位	高い	
総合評価 ※自動判定		改善すべき点がある	

5 特記事項

参加費 1組3,000円
 * 高校生以下は1組1,000円

6 自己評価(担当課)

評価結果	改善
理由	本年度で5回目を迎える本事業について、出演者や観客から継続を望む声が多く寄せられているため、多様なバンドの出演や、より多くの観客が会場に足を運ぶような周知方法などを含め、企画・運営方法について検討が必要。
今後の方向性	総合的な評価を考慮し、本事業の企画・運営方法について検討する。

7 1次評価(庁内行政評価委員会)

評価結果	改善
今後の方向性に係る意見等	妥当性の評価がC判定となっていることから、所管課の方向性に加え、協働による手法の検討や団体の育成等、将来的に実施主体を町から団体等へ転換することを見据えた改善を図るべきである。

8 2次評価(外部評価:行政改革推進委員会)

評価結果	改善
今後の方向性に係る意見等	本イベントは多くの若者が参加しており、若者文化の創造と定着に向け一定の効果が認められ、将来性のある事業と考えられるが、音響設備などの経費面や受益者負担、実行委員会による自主開催などの課題について検証し、より妥当性の高い事業へと改善を図るべきである。

9 2次評価(実施のない場合は1次評価)を踏まえた対応案(担当課)

本事業は平成27年度に開始した事業で、本年度で5回目の開催を迎える。事業は出演者から構成される実行委員会が企画から運営まで行っているが、事前の準備事務や会場設営、委託料の管理など、町職員が業務の大部分に関与しているため、現状では実行委員会による自主開催は困難な状況となっている。出演者の固定化や事業内容の新たな創造など、本年度の事業終了後に諸課題について検証し、令和2年度中に実施事業についての改善方法等について協議・検討を行い方向性を決定する。

10 町の最終方針(行政改革推進本部会議)

評価結果	改善
理由・改善方針	本イベントは多くの若者が参加しており、若者文化の創造と定着に向け一定の効果が認められ、将来性のある事業であることから、音響設備などの経費面や受益者負担、実行委員会による自主開催などの課題について検証し、より妥当性の高い事業へと改善を図る。